

人も地球も健康に

**Yakult**

# 株式会社ヤクルト本社

## 第57期中間期 株主通信

平成20年4月1日～平成20年9月30日



### CONTENTS

- |    |                   |    |                  |
|----|-------------------|----|------------------|
| 01 | 株主の皆さまへ／連結業績ハイライト | 10 | 第2四半期個別財務諸表等     |
| 03 | セグメント別業績概況        | 11 | 会社情報             |
| 06 | 所在地別セグメント概況       | 13 | コラム「ヤクルトとジョアの歴史」 |
| 07 | 第2四半期連結財務諸表等      |    |                  |

# To Our Shareholders

## ごあいさつ



株主の皆さまには、ますますご清祥のことと心からお喜び申し上げます。

ここに、平成20年4月1日から平成20年9月30日までの経営成績につきまして、連結の業績を中心にご報告申し上げます。

平成20年12月 代表取締役社長

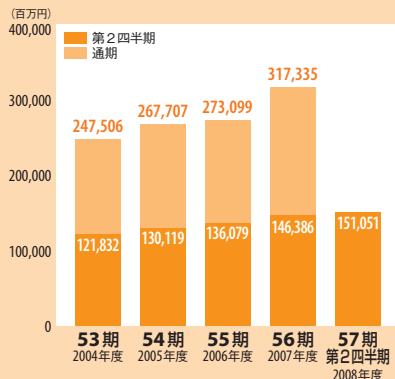
堀 澄也



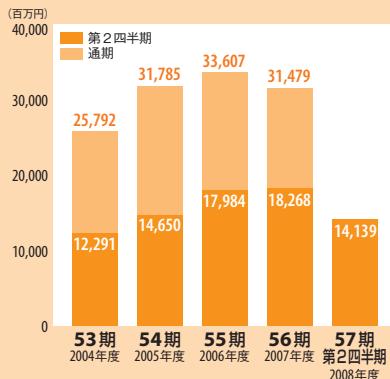
私たちは、  
生命科学の追究を基盤として、  
世界の人々の健康で楽しい  
生活づくりに貢献します。

## 連結業績ハイライト

### 売上高



### 経常利益



### 四半期純利益



## 当第2四半期について

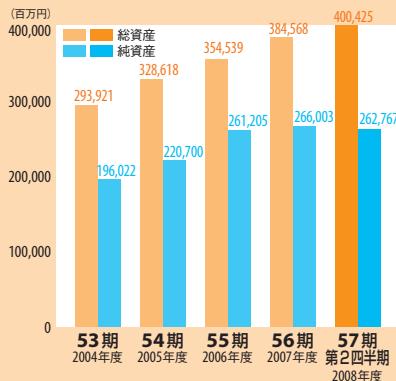
当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、原油価格などの高騰による企業収益の低迷や、物価上昇などの影響による個人消費の伸び悩みに加え、米国金融機関の経営問題に端を発した金融市場の混乱もあり、景気後退懸念が広がりつつある状況で推移しました。

このような状況の中で、当社グループは、事業の根幹であるプロバイオティクスの啓発・普及活動を展開し、商品の優位性を訴求してまいりました。また、販売組織の拡充、新商品の研究開発や

生産設備の整備に加え、海外事業や医薬品事業にも積極的に取り組み、業績の向上に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は151,051百万円（前年同期比3.2%増）となりました。利益面においては、経常利益は14,139百万円（前年同期比22.6%減）、四半期純利益は7,357百万円（前年同期比28.6%減）となりました。

## ● 総資産／純資産



## 通期の見通し

売上高	303,500百万円
経常利益	25,500百万円
当期純利益	11,500百万円

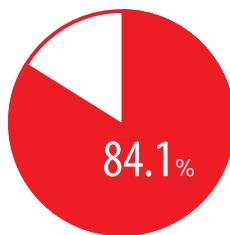
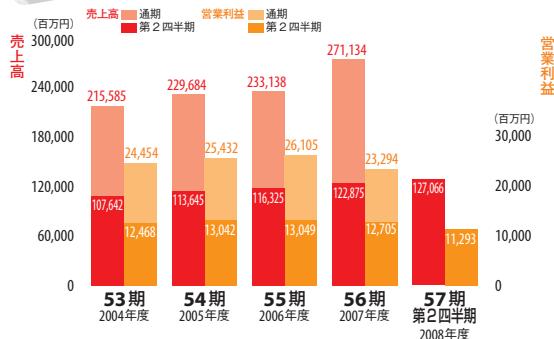
# Financial Result by Segments

## 飲料および 食品製造販売 事業部門

### 当第2四半期連結累計期間

売上高 127,066 百万円  
(前年同期比: 3.4% ↑)

営業利益 11,293 百万円  
(前年同期比: 11.1% ↓)



売上高構成比

乳製品については、引き続き「乳酸菌 シロタ株」の価値訴求を前面に打ち出した販売活動を展開しました。これにより、乳製品全体では、前年同期を上回る実績となりました。一方、ジュース・清涼飲料については、健康機能性食品を中心に商品ラインアップの充実を図り、販売拡大に努めましたが、ジュース・清涼飲料全体としては、前年同期を下回る実績にとどまりました。海外については、30の国と地域で「ヤクルト」の製造、販売を行っており、販売エリアを順次拡大しております。これらの結果、国内と海外を合わせた飲料および食品製造販売事業部門の連結売上高は127,066百万円(前年同期比3.4%増)となりました。

## NEWS & TOPICS

### 2008年 ニュース&トピックス

#### 乳製品乳酸菌飲料 「BF-1 / ビーエフワン」を新発売

当社では創業以来、予防医学の考えに基づき、有用微生物利用に関する研究を続けてきました。その成果として、胃にとどく独自のピフィズ菌“B. ピフィダム BF-1株”の培養に成功。この“B. ピフィダム BF-1株”を1本に10億個以上含み、酸味、甘味を抑えたミルク風味に仕

上げ、新価値訴求型の乳製品乳酸菌飲料「BF-1 / ビーエフワン」が誕生しました。2008年6月から東北地区・関東地区・信越地区の一部地域限定で販売を開始し、毎日継続して飲んでいただくため、ヤクルトレディによる宅配チャネルで発売しています。

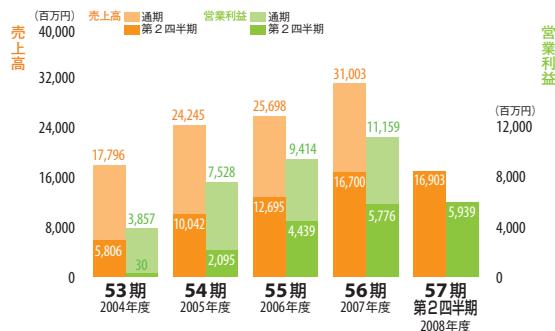


## 医薬品 製造販売 事業部門

### 当第2四半期連結累計期間

売上高 16,903 百万円  
(前年同期比: 1.2% ▲)

営業利益 5,939 百万円  
(前年同期比: 2.8% ▲)



売上高構成比

がん化学療法剤「エルプラット」の適正使用を重視した販売活動を展開しました。また、がん化学療法剤「カンプト」、制吐剤「シンセロン」および活性型葉酸製剤「レボホリナートヤクルト」の売り上げ増大を図るなど、がん領域への特化および販路拡大に力を注ぎました。海外では、米国で「カンプト」の市場シェアが減少していることから、カンプト原薬の供給価格について、市場実態に柔軟に対応し、価格競争力の維持に努めました。一方、欧州の主要国では、「カンプト」の売り上げが好調に推移しました。これらの結果、医薬品製造販売事業部門の連結売上高は16,903百万円(前年同期比1.2%増)となりました。

## 乳性飲料 「ミルージュCa (カルシウム) プラス」を新発売

乳性飲料「ミルージュ」のシリーズ品として、2008年10月から「ミルージュCa (カルシウム) プラス」を発売しました。

1994年に発売した「ミルージュ」は、当社のヨーグルトを使用した乳性飲料ブランドで、2004年にはビタミンDを強化することで「栄養機能食品 (ビタミン D)」と

しての機能性を付加し、健康訴求を高め、販売実績を拡大しました。

「ミルージュCaプラス」はビタミンDに加え、新たに若い男女に不足しがちなカルシウムを配合しました。また、香味や液色にも「ヤクルトらしさ」を演出しており、「ヤクルトがつくった乳性飲料」であることがより分かりやすくなっています。

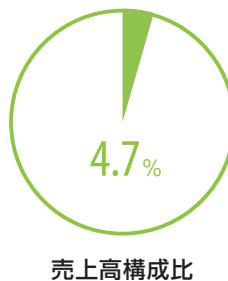
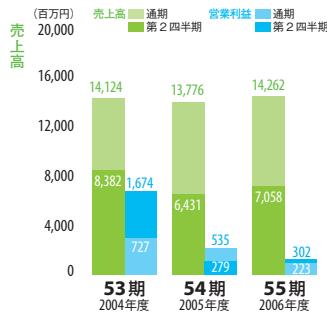


### その他 事業部門

#### 当第2四半期連結累計期間

売上高 7,081 百万円  
(前年同期比：4.0% ↑)

営業利益 273 百万円  
(前年同期比：18.3% ↓)



化粧品については、基礎化粧品に重点を置いた販売活動を展開しました。特に「パラピオ」進化型シリーズにおいて、アンチエイジング世代のお客さまに素肌の若返りを提案しました。また、湘南化粧品工場での施設見学をとおして、乳酸菌生まれの成分を配合した化粧品であることを強く訴えました。この結果、化粧品全体としては前年同期を上回る実績となりました。

一方、プロ野球興行については、積極的なファンサービスや情報発信などを行い、リニューアルした神宮球場への集客を図りました。これらの結果、その他事業部門の連結売上高は7,081百万円（前年同期比4.0%増）となりました。

### 基礎化粧品「リベシィ」 ベーシックケア4品を新発売

2008年10月、基礎化粧品「リベシィ」が、予防美容を体現するシリーズとして生まれ変わり、「クレンジングクリーム」「ウォッシング」「ローション（モイスチュア）」「ミルク（モイスチュア）」のベーシックケア4品を発売しました。新発売の4品は、乳酸菌から生まれた3つの保湿成分「乳酸菌はっ酵エキス（ミルク）」・「乳酸菌はっ酵工

キス（アロエ）」・「高分子ヒアルロン酸」の配合比率を変更したことで、従来よりも保湿力が向上しました。また、植物エキス（保湿成分）を新たに配合し、お肌が本来持っている美しくなろうとするチカラに働きかけます。さらに、森林浴をしているような自然の香りが緊張感や疲れをときほぐし、心地よいやすらぎをもたらします。





### ヨーロッパ地域

ヨーロッパ地域においては、乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」等をオランダで製造し、同国を含め、イギリス、ドイツ、ベルギー、オーストリア、イタリアで販売しています。当該地域全体での販売本数は、営業開始以来好調に推移していますが、競合他社の攻勢もあり、競争が激化しています。この結果、ヨーロッパ地域の連結売上高は7,323百万円（前年同期比8.9%減）となりました。



### ヨーロッパ地域

売上高 **73** 億円 (前年同期比: 8.9% ↓)

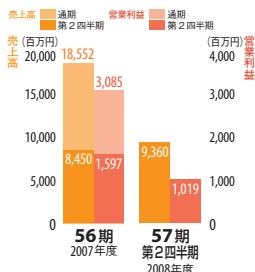


### アジア・オセアニア地域

売上高 **93** 億円 (前年同期比: 10.8% ↑)

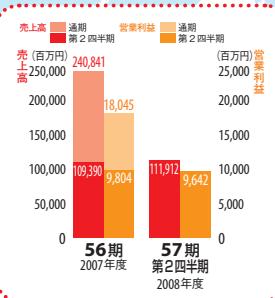
### アジア・オセアニア地域

アジア・オセアニア地域においては、香港、中国、インドネシア、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、インド、ベトナムで乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」等を製造、販売しています。中国においては、7月に済南で販売を開始し、中国華東地区を中心に販売エリアを拡大しています。また、華北地域への商品供給のため、天津市に製造会社（天津ヤクルト株式会社）を設立する認可を得て、中国で3番目となる工場建設に向けて準備を進めています。この結果、アジア・オセアニア地域の連結売上高は9,360百万円（前年同期比10.8%増）となりました。



### 日本

売上高 **1,119** 億円 (前年同期比: 2.3% ↑)

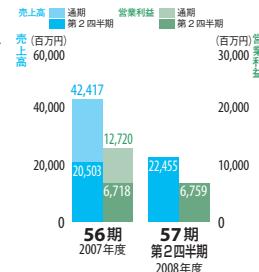


### 米州地域

売上高 **224** 億円 (前年同期比: 9.5% ↑)

### 米州地域

米州地域においては、メキシコ、ブラジルで乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」等を製造、販売し、アルゼンチン、アメリカでは「ヤクルト」を輸入販売しています。このうち、ブラジルでは順調に売り上げを伸ばし、大幅に前年同期を上回りました。また、メキシコにおいては9月にドリンクタイプヨーグルト「ソフル」の生産能力を増強しました。この結果、米州地域の連結売上高は22,455百万円（前年同期比9.5%増）となりました。



# Consolidated Financial Statements

## 第2四半期連結貸借対照表

単位：百万円

科目	第56期連結会計年度 平成20年3月31日現在	第57期第2四半期 平成20年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>184,659</b>	<b>187,843</b>
現金及び預金	81,172	79,156
受取手形及び売掛金	49,199	55,071
有価証券	258	259
商品及び製品	6,844	8,150
仕掛品	2,797	2,679
原材料及び貯蔵品	25,237	25,317
その他	20,221	18,270
貸倒引当金	△ 1,072	△ 1,062
<b>固定資産</b>	<b>199,909</b>	<b>212,581</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>116,077</b>	<b>133,752</b>
建物及び構築物	43,259	43,764
その他	72,818	89,987
<b>無形固定資産</b>	<b>4,670</b>	<b>4,555</b>
のれん	1,164	1,017
その他	3,505	3,537
<b>投資その他の資産</b>	<b>79,161</b>	<b>74,274</b>
投資有価証券	70,393	65,228
その他	9,038	9,495
貸倒引当金	△ 270	△ 390
投資損失引当金	—	△ 59
<b>資産合計</b>	<b>384,568</b>	<b>400,425</b>

科目	第56期連結会計年度 平成20年3月31日現在	第57期第2四半期 平成20年9月30日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>88,991</b>	<b>96,242</b>
支払手形及び買掛金	23,791	30,455
短期借入金	29,591	28,738
未払法人税等	1,552	3,231
賞与引当金	4,422	5,550
役員賞与引当金	168	—
工場再編損失引当金	516	516
その他	28,948	27,751
<b>固定負債</b>	<b>29,574</b>	<b>41,415</b>
長期借入金	4,472	4,771
退職給付引当金	15,970	16,290
役員退職慰労引当金	1,053	477
工場再編損失引当金	—	197
負ののれん	—	252
その他	8,078	19,426
<b>負債合計</b>	<b>118,565</b>	<b>137,657</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>236,764</b>	<b>239,936</b>
資本金	31,117	31,117
資本剰余金	40,955	41,135
利益剰余金	172,273	175,969
自己株式	△ 7,581	△ 8,286
<b>評価・換算差額等</b>	<b>516</b>	<b>△ 6,580</b>
その他有価証券評価差額金	193	△ 1,813
為替換算調整勘定	323	△ 4,766
<b>少数株主持分</b>	<b>28,721</b>	<b>29,411</b>
<b>純資産合計</b>	<b>266,003</b>	<b>262,767</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>384,568</b>	<b>400,425</b>

## 第2四半期連結損益計算書

単位：百万円

科目	第56期第2四半期累計	第57期第2四半期累計
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
売上高	146,386	151,051
売上原価	65,235	71,361
売上総利益	81,151	79,690
販売費及び一般管理費	68,610	68,804
営業利益	12,540	10,886
営業外収益	6,660	4,541
受取利息	1,571	1,569
受取配当金	397	376
持分法による投資利益	2,023	1,699
その他	2,668	896
営業外費用	932	1,287
支払利息	98	464
為替差損	—	400
支払手数料	206	205
その他	627	217
経常利益	18,268	14,139
特別利益	2,109	418
固定資産売却益	55	310
その他	2,054	108
特別損失	778	900
固定資産除売却損	134	232
工場再編損失引当金繰入額	314	197
その他	328	470
税金等調整前四半期純利益	19,599	13,657
法人税等	7,027	4,158
少数株主利益	2,263	2,141
四半期純利益	10,309	7,357

## 第57期第2四半期のポイント

1. 売上高過去最高
2. 利益においては原材料高騰等の影響により減益
3. 販売本数は順調に推移

## 売上高推移（連結）



## 営業利益推移（連結）



## 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	第56期第2四半期累計	第57期第2四半期累計
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	19,599	13,657
減価償却費	5,213	9,143
引当金の増減額(△は減少)	598	884
受取利息及び受取配当金	△1,969	△1,945
支払利息	98	464
持分法による投資損益(△は益)	△2,023	△1,699
有形固定資産除売却損益(△は益)	79	△77
その他の損益(△は益)	626	1,201
売上債権の増減額(△は増加)	△7,594	△5,802
たな卸資産の増減額(△は増加)	△689	△1,236
仕入債務の増減額(△は減少)	3,360	6,644
その他の資産・負債の増減額	△1,897	△1,701
小計	15,402	19,532
利息及び配当の受取額	2,667	2,496
利息の支払額	△93	△470
法人税等の支払額	△6,234	△3,377
法人税等の還付額	—	3,641
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>11,742</b>	<b>21,822</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	857	△2,905
定期預金の払戻による収入	—	3,620
固定資産の取得による支出	△12,750	△16,194
固定資産の売却による収入	536	946
投資有価証券の取得による支出	△1,389	△231
連結範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	△10	△586
その他	△568	△492
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△13,323</b>	<b>△15,843</b>

単位：百万円

科目	第56期第2四半期累計	第57期第2四半期累計
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	5,988	△825
長期借入による収入	3,025	855
長期借入金の返済による支出	△1,010	△819
リース債務の返済による支出	—	△2,829
配当金の支払額	△1,830	△2,154
その他	376	478
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>6,548</b>	<b>△5,295</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>2,405</b>	<b>△1,984</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>7,372</b>	<b>△1,301</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>70,999</b>	<b>74,894</b>
<b>新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額</b>	<b>164</b>	<b>—</b>
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>78,535</b>	<b>73,593</b>

## ポイント

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益13,657百万円に加え、仕入債務の増加等があった一方で、売上債権の増加等があったことにより21,822百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に生産設備の新設および増設による固定資産の取得があったこと等により△15,843百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済および配当金の支払いにより△5,295百万円となりました。

## 第2四半期個別貸借対照表

単位：百万円

科目	第56期 平成20年3月31日現在	第57期第2四半期 平成20年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	93,461	95,353
固定資産	149,717	160,985
有形固定資産	53,076	65,852
無形固定資産	3,239	3,050
投資その他の資産	93,401	92,082
資産合計	243,179	256,338
<b>負債の部</b>		
流動負債	70,005	77,212
固定負債	13,615	20,966
負債合計	83,620	98,179
<b>純資産の部</b>		
株主資本	159,708	160,402
資本金	31,117	31,117
資本剰余金	40,659	40,659
資本準備金	40,659	40,659
利益剰余金	95,293	95,996
利益準備金	7,779	7,779
その他の利益剰余金	87,514	88,217
固定資産圧縮積立金	—	611
別途積立金	77,000	81,000
固定資産圧縮特別勘定積立金	746	134
繰越利益剰余金	9,768	6,471
自己株式	△7,361	△7,371
評価・換算差額等	△150	△2,243
その他有価証券評価差額金	△150	△2,243
純資産合計	159,558	158,159
負債・純資産合計	243,179	256,338

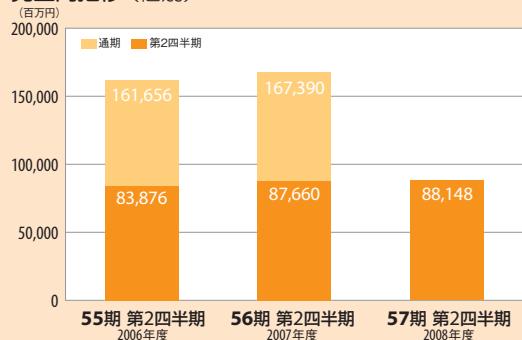
## 第2四半期個別損益計算書

単位：百万円

科目	第56期第2四半期累計 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	第57期第2四半期累計 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
売上高	87,660	88,148
売上原価	52,349	55,210
売上総利益	35,310	32,937
販売費及び一般管理費	32,268	31,077
営業利益	3,041	1,860
営業外収益	4,671	3,204
営業外費用	409	599
経常利益	7,303	4,465
特別利益	2,008	309
特別損失	318	454
税引前四半期純利益	8,993	4,320
法人税等	3,126	1,460
四半期純利益	5,866	2,860

・個別に関しては、監査法人のレビューを受けておりません。

### 売上高推移（個別）



## 海外事業所



## 連結子会社（68社）

### 主要な連結子会社

- 千葉中央ヤクルト販売株式会社（「ヤクルト」等の販売）
- 株式会社神戸ヤクルト工場（「ヤクルト 400」等の瓶詰）
- ヤクルト商事株式会社（「ヤクルト」等の販売用資機材の販売）
- 株式会社ヤクルトマテリアル（香料等の製造販売）
- ヤクルト食品工業株式会社（麺類の製造販売）
- 中央ヤクルト物流株式会社（「ヤクルト」等の輸送）
- 株式会社ヤクルト球団（プロ野球の興行）
- メキシコヤクルト株式会社（「ヤクルト」等の製造販売）

## 各地区販売会社・瓶詰会社

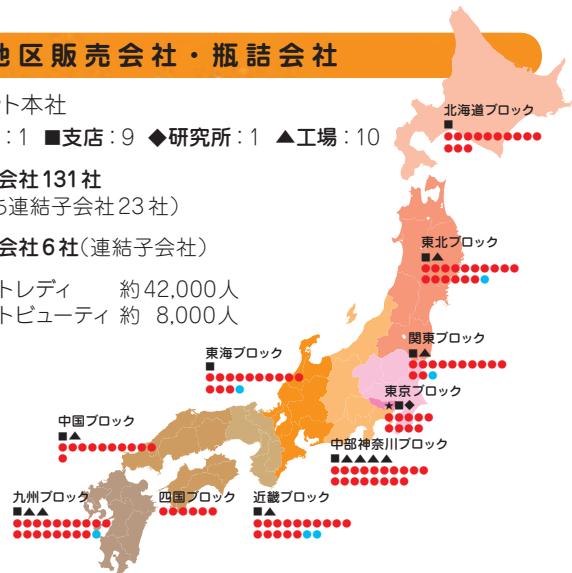
ヤクルト本社

★本店：1 ■支店：9 ◆研究所：1 ▲工場：10

●販売会社 131 社  
（うち連結子会社 23 社）

●瓶詰会社 6 社（連結子会社）

ヤクルトレディ 約 42,000 人  
ヤクルトビューティ 約 8,000 人



## 会社概要

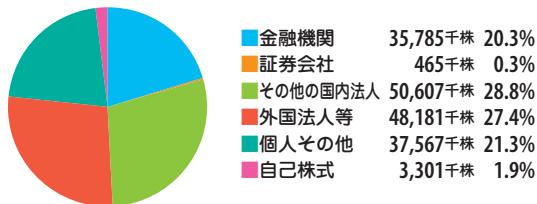
商号 株式会社ヤクルト本社  
(YAKULT HONSHA CO.,LTD.)  
設立 昭和30年4月9日  
本店 東京都港区東新橋1丁目1番19号  
電話 03(3574) 8960 (大代表)  
資本金 311億17百万円  
従業員 2,467名

(注) 上記従業員数には、出向者・嘱託は含まれていません。

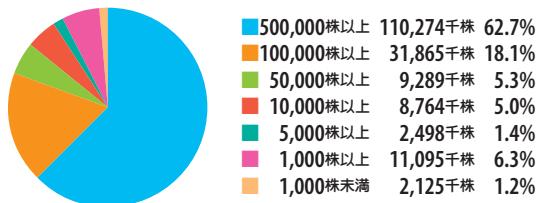
## 株式の状況

発行可能株式総数……………700,000,000株  
発行済株式総数……………175,910,218株  
株主数……………20,660名

## 所有者別分布状況



## 所有株式数別分布状況



## 役員

代表取締役社長	堀 澄也	取締役	村田 泰文	取締役	竹村 雅行
専務取締役	勝又 昭	取締役	根岸 正広	取締役	荒木 敏博
専務取締役	釣谷 尚正	取締役	阪本 重善	取締役	星野 哲也
専務取締役	田中 隆一郎	取締役	成田 裕	取締役	阿部 泰久
専務取締役	富部 保	取締役	澤田 治司	常勤監査役	大坪 勝己
専務取締役	千野 龍二	取締役	阿部 晃範	常勤監査役	田中 竹義
専務取締役	寺田 清	取締役	ジャックヴァンサン	監査役	中村 輝夫
常務取締役	川端 美博	取締役	イマエエルファベル	監査役	奥平 哲彦
常務取締役	衣笠 剛	取締役	スヴェントマレン	監査役	角屋 良平
常務取締役	甲斐 千束	取締役	マルセルバルト	監査役	池田 雅彦
常務取締役	根岸 孝成	取締役	池上 昭二	監査役	谷川 清十郎

## 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
エムエルピーエフエス ノミニー/ダノン アジア ホールディングス プライベート リミテッド	35,212	20.02
松尚株式会社	11,530	6.55
株式会社フジテレビジョン	6,492	3.69
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口	4,957	2.82
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	4,180	2.38
共進会	4,099	2.33
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	3,833	2.18
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口4G)	3,607	2.05
日本生命保険相互会社	2,920	1.66
キリンビバレッジ株式会社	2,458	1.40

(注) 共進会は、当社の取引先であるヤクルト販売会を会員とする持株会社です。  
上表のほか、当社は自己株式3,301千株を保有しています。

# だから、ロングセラー。 ～ヤクルト、ジョア 進化の系譜

1935年

## 初代ヤクルト誕生

京都帝国大学の医学博士、代田稔は、おなかの調子を整える乳酸菌の強化培養に世界で初めて成功。この「シロタ株」を一人でも多くの人々に摂取してもらうため、安価でおいしい乳酸菌飲料として商品化します。1935年、乳酸菌飲料「ヤクルト」の誕生です。



1968年

## プラスチック容器を採用

従来のガラス瓶から、現在のようなプラスチック製の容器に改められました。



1981年

## ヤクルト80

容量を80mlに増やしたことと、1980年代に登場した商品であることから、「ヤクルト80」と名付けられました。

1970年

## 初代ジョア誕生

発売当時は、世界で初めての「のむタイプのヨーグルト」として発売直後から大ヒット。フランス語で「よろこび」を意味する商品名は、社内公募から選ばれました。当時のラインナップは「ブレーン」「マンダリンオレンジ」「ブラックカーラッツ」の3種類でした。



1983年

## 2代目ジョア

初のパッケージリニューアル。1987年には、カロリー40%カットの「ライト®」「レモン」が登場しました。



1992年

## 3代目ジョア

オレンジ味を追加してリニューアル。1994年には、高級デザート感覚のおいしさをプラスした「プレミアム・ジョア」が登場しました。



時代を超えて多くの人々に愛されるロングセラー商品。それは決して、生み出そうとして生み出せるものではありません。いつの時代にも決して変わらない本質的な魅力を持ちながらも、時代の変化に合わせて柔軟に姿を変えていく。そんな商品だけが、ロングセラーたり得るのではないのでしょうか。当社の二大ロングセラー、「ヤクルト」と「ジョア」の進化の系譜をご覧ください。

1999年

### ヤクルト400

乳酸菌 シロタ株が1本に400億個含まれている「保健機能食品(特定保健用食品)」として、「ヤクルト」に次ぐ人気アイテムになりました。

2005年

### ヤクルト300V

1本に含まれる乳酸菌 シロタ株(300億個)の数と、「ビタミン(Vitamin)」や「Vitality(活力)」のVからのネーミングです。

2008年

### ヤクルト400LT

生きて腸内まで到達し、腸内環境を改善する乳酸菌 シロタ株を、1本当たり400億個含んだ乳製品乳酸菌飲料です。「おなかの調子を整える特定保健用食品」として大好評を博している「ヤクルト400」をベースに、甘さを約25%ダウン、カロリーを約30%カットし、甘さひかえめに仕上げています。ヤクルトレディを通じて販売しています。



1999年

### 4代目は「トクホ」

今ではすっかりお馴染みの「特定保健用食品(通称トクホ)」。ジョアはいち早く「おなかの調子を整える効果」を厚生労働省に認められていました。

2005年

### 5代目ジョア

「おいしさ感」と「機能感」をテーマに、デザインをリニューアルしました。



2008年

### パッケージとラインアップを全面刷新

パッケージを全面リニューアルした、6代目のジョア。果汁感のおいしさをさらに追求すると同時に、新アイテムとして「白ぶどう」を追加しました。容器の蓋部の素材を「アルミ」から「ポリスチレン」に変更し、分別廃棄の必要がなくなりました。プレーン、ストロベリー、ブルーベリー、白ぶどうの4種類のラインアップで、全国のスーパーやヤクルトレディなどを通じて販売しています。



## ホームページのご紹介

当社のホームページでは、会社情報、IR情報、商品情報、環境対策などさまざまな最新情報を掲載しております。特に株主・投資家の皆さまに向けましては、トップメッセージ、決算短信、有価証券報告書のほかIRニュースなども掲載しております。ぜひご覧ください。



<http://www.yakult.co.jp/>

## 株主優待

### 当社商品の提供

毎年3月31日現在で100株以上所有の株主の皆さま

- 当社「化粧品」「乾めん詰め合わせ」「ジュース詰め合わせ」のうちお好きな商品を進呈（※1,000株以上所有の株主の皆さまは商品内容が異なります）。

### 東京ヤクルトスワローズが神宮球場で主催するプロ野球公式戦「株主優待証(外野自由席)」の提供

毎年9月30日現在で1,000株以上所有の株主の皆さま

- 対戦するセ・リーグ5チームにつき2試合ずつ計10試合プラス交流試合2試合で計12試合まで。1試合につき外野自由席の入場券2枚まで引き換え可。

毎年9月30日現在で100～999株所有の株主の皆さま

- 年間2試合まで（4～6月で1試合+7月以降で1試合）。1試合につき外野自由席の入場券2枚まで引き換え可。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
株主総会	定時株主総会 毎年6月中 臨時株主総会 必要に応じ随時
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日

公告掲載方法 電子公告  
<http://www.yakult.co.jp/>  
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 東京証券代行株式会社  
事務取扱場所 〒100-0004  
東京都千代田区大手町二丁目6番2号（日本ビル4階）  
(郵便物送付先) 〒168-0063  
(連絡先) 東京都杉並区和泉二丁目7番1号  
東京証券代行株式会社 代行本部  
☎0120-49-7009

### I. 株券の電子化について

平成21年1月5日(月)から上場会社は株券電子化制度へ移行し、お手元の当社株券は無効となり、すべての株主さまの権利は電子的に証券会社等の口座で管理されます。これにともない、各種手続きのお申し出先が次のとおり変更となりますので、ご注意ください。

1. 未支払配当金のお支払い  
これまでどおり、株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
2. 住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定等  
お取り引きの証券会社等にお申し出ください。

なお、株券電子化制度への移行までに証券会社等を通じて証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主さまの株式につきましては、当社が東京証券代行株式会社に口座(特別口座)を開設いたしますので、こちらがお申し出先になります。ただし、お申し出を受け付けることができるのは、口座開設予定日である平成21年1月26日(月)からとなりますので、ご了承ください。

### II. 株券の電子化移行日前後の各種ご請求のお取り扱いについて

平成21年1月5日(月)の株券電子化制度への移行にともない、以下の各種ご請求につきましては、次のとおりお取り扱いさせていただきますので、ご了承ください。

1. 単元未満株式の買取請求について  
(1)平成20年12月25日(木)から平成20年12月30日(火)までのご請求分につきましては、買取代金のお支払いを平成21年1月26日(月)とさせていただきます(買取価格はご請求日の価格となります。また、値が付かない場合は返却させていただきます)。  
(2)平成21年1月5日(月)から平成21年1月25日(日)までの間は、特別口座に記録された単元未満株式の買取請求の受け付けを停止させていただきます。ご希望の場合は平成21年1月26日(月)以降、特別口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
2. 振替請求について  
株券電子化移行後、特別口座に記録された株式を一般口座へ振替請求される場合には、平成21年1月26日(月)以降、特別口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。  
なお、お手続きに際しましては、あらかじめ証券会社にご本人名義の口座を開設してください。

**Yakult**

株式会社ヤクルト本社 証券コード2267  
東京都港区東新橋1丁目1番19号 TEL:03-3574-8960 (大代表)

PRINTED WITH  
SOY INK  
本報告書は、環境保全のため再生紙を使用し、  
大豆由来のインクで印刷しています。